2022 年度:こども園自己評価の報告書　　ゆたかこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 **教育及び保育の目標** **全体計画・指導計画** **こども園として特に配慮すべき事項** ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み　等	・月の指導計画を作成時、クラスの課題を明記し、課題克服のためにどう取り組んでいくか、ＰＤＣＡ―Ｒサイクルを活用し意識して取り組んだ。子どもの育ちやそのための手立てを毎月確認することで課題からブレずに教育保育に取り組むことができた。 ・教育環境の整備では、フリー教諭を中心に使いやすく片付けやすい環境の整備に取り組んだ。現状の人的環境の中で継続していくことが課題。 ・園内研究では「子ども理解と援助について」「ドキュメンテーション活用について」をテーマに学びを深め実践に活かすことができた。 ・コロナ禍の 3 年、異年齢交流の機会が減ったことで、在園期間 3 年を見据えた子どもの育ちや教育保育の見通しについて職員間の共有ができきれなかった。コロナが 5 類になると様々な対応が変わることで保育形態も変化していくと思われるので、次年度の課題としたい。
健康支援	・自分達の体に関する指導（清潔、生活リズム等）や保健指導（触れて遊ぶ掲示物等）を毎月の保健指導後に掲示し、子ども達が継続して意識できるようにした。年間通して、計測時の保健指導では『自分の体も友だちの体も大切にしてほしい』との願いを様々な形で伝えることを大切に取り組んだ。
安全管理	・毎月行っている『安全点検』『避難訓練』では、職員各々が役割と責任をもてるよう取り組んだ。これらの取り組みが職員の危機管理や安全管理の意識向上に繋がった。また、防災・防犯の意識も訓練時のみならず、日々の生活の中で子ども達自身も意識できるようにタイムリーになげかけてきた。 ・子ども達が危険なく安全に過ごせるよう、職員間の情報共有に努め、子ども達にも何故？どうして？が理解できるようわかりやすく伝えることに努めた。
食育の推進	・育てた野菜をカレー作りや豆ごはん作り、焼き芋パーティー等、友達と一緒に作ったり食べたりする喜びを感じる機会をもつことができた。 ・保健指導では、食事のルールや歯磨き、栽培物への興味、三大栄養素・食事のメニュー作り、お箸の持ち方等の教材を作成した。子ども達にわかりやすいよう遊びの要素も取り入れながら年間通して継続し取り組んだことで、子ども達の食への興味づけや食に関する理解に繋がった。
子育て支援 ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携　等	・毎日の子ども達の様子を具体的に保護者に伝えることで、保護者と一緒に子どもの成長を喜び安心していただくことができた。また、子どもが感じている困り感や課題を共有した時や、保護者の子育ての悩みに対しては、同じ目線で一緒に考えていくことを大切にした。 ・毎週火曜日、地域支援保育教諭を中心に行っている『地域支援事業』では、地域の利用者が年々増え、定着してきたと感じる。また、在園児との交流を重ねることで在園児にとっては、小さい友達へのかかわり方や思いやりを学ぶ機会となり、地域の利用者さんにとっては、未来の我が子の姿を微笑ましくイメージしてもらえている。 『サロン』との連携は、次年度、回数を増やすことを目指す。
教育・保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現	・『豊中市認定こども園全体計画』を基に、今の子どもの姿に合わせて並列クラスと取り組み内容について相談し進めた。この 3 年間、コロナの感染状況から異年齢交流が少なくなったことで 3.4.5 歳児、3 年間を見通した教育保育の視点での他学年との取り組みの共有やすりわせが十分ではなかったため反省が残った。次年度の課題としたい。 ・公開保育では『豊中市環境ガイドライン』を用いることで、職員間

	で客観的に教育保育の振り返りや評価をすることができた。
特別支援教育	・支援担当職員やコーディネーターと共に日常の保育での対応や行事に向かうまでの取り組み等、計画的にすすめることができた。子どもの姿が日々変化していくに伴い手立ても再考していたが、職員間で相談できる時間確保が難しく、共有するための工夫が必要であり課題である。
職員の資質の向上	・『保育アドバイザー研修』では、わかりやすい情報発信の方法や一人一人の個性を大切にする〔子ども理解〕を視点に置いた遊びや環境、支援の方法を学んだ。『人権研修』では、正しい情報を知ろうとする努力や自身の人権感覚を常に磨くことの大切さを学び、日々、実践、評価、反省を繰り返しながら資質の向上に努めた。勤務時間がすべて保育で終わってしまい、日々、職員間で話し合う時間の確保が難しく情報共有に関しては、さらなる努力が必要であり今後の課題である。
幼保こ小中の連携	・本年度は、3年ぶりに近隣小学校に年長児が遊びに行く機会をもつことができた。1年生との交流を通して、進学に向け、自分達の学校生活に期待を膨らませることや不安の軽減につながったのではないかと感じる。 ・『幼保こ小連絡会』においては【「連携」から「接続」へ　遊びの中の学びを捉え、小学校につないでいく】をテーマに、子どもたちとって段差の少ない滑らかな接続にむけての取り組みを実践事例から報告しあい、就学にむけ子ども達が安心して学校生活を送れるように、配慮や支援等の引き継ぎを行った。
関係者評価の取り組み	・『評議員会』は、年3回開催。今年度は子どもの姿〔水遊び・制作遊び・生活発表会〕を実際に参観していただきながら園の教育保育や園運営についてご説明した。コロナ禍で人との繋がりがもちにくくなった中で育っていく子ども達のコミュニケーション能力を危惧する意見や地域の大人同士も関係性が希薄になり、どのように地域の子ども達を見守りかかわっていけるのか、その難しさ等の意見が出された。一方、地域行事も少しずつ再開されており、コロナに振り回され混沌とした時代だからこそ一層、地域が連携しながら地域に開かれた公立こども園の役割を果たしていくこと、就学前から学校へと同じ地域で切れ目のない地域支援をしていくために園、学校、地域との連携の大切さを確認することができた。
その他	・コロナ対応が変わっていく過渡期でコロナ前とコロナ後で見えた長所、短所を整理し、次年度の教育保育のあり方を再構築していく必要がある。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課　　題	具体的な取り組み方法
保育内容、教育目標の発信	・今年度学んだ『ドキュメンテーション』の活用を継続し、園の取り組みや子どもの育ちをわかりやすく伝える。 ・タブレットの様々な活用方法を学ぶ機会をもち、職員の活用機会を増やす。
学びの共有化	・保育以外の研修や打ち合わせ等の時間捻出の困難さや勤務形態の多様化により、研修で学んだことを伝えあう機会が十分でない。資料回覧にとどまることなく、引き続き直接ポイントを伝えながら保育実践に活かせるよう更なる工夫をしていく。

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立ゆたかこども園

園長名　松永　恵美子